

わたしは年の離れた友人、助川さん（看護士さん）との何気ない会話から「今後の社会における高齢者の住まい方」について修士設計で取り組もうと決めました。

身近な高齢者の皆さんや助川さんとお話ししながら設計を進めていく過程で、ある風景がわたしの中に浮かびました。

それは、「地域 + 元気高齢者」という風景です。

難しい問題が多い、どちらかというとマイナスなイメージがある高齢化問題。しかし、わたしが思っていたよりも現在、そしてこれから高齢者は元気で生きる楽しみを失っていない方が多いと感じました。

その姿を見せることで、高齢者（社会）に対してプラスなイメージを他の世代が持つこと、そして高齢者が尊敬されつつ暮らす場所を考えました。

## 高齢者の皆さんのお話から考えた、設計の決まり

### 1、施設の定義

「高齢者」というテーマを語る時、入居者の健康サポートについてまず考えました。

お話の中で多くの方が望むことは慣れ親しんだ土地で暮らし、そのまま最後のときを迎えることだと聞きました。そのことから、入居者が自分の健康状態を考慮しながら暮らし方を選択できる施設の在り方として今回の設計は

経費老人ホーム ケアハウスという想定にしました。

ケアハウスは入居条件として基本的に介護が必要ではない方が対象ですが、介護が必要となった場合は入居したまま外付けなどの介護サービスを受けることが出来ます。勿論、健康状態が悪化した場合は本人の意思で別の医療設備が整った場所へ移る選択も可能です。

### 2、設計について

高齢者アンケートから、ほとんどの人が今後の住まいの候補として高齢者施設の見学に行ったことがあったと知りました。

その結果、出てきた皆さんの要望を踏まえたプランニングを考えました。

- セミプライベートがある居室。  
多くの施設の居室はワンルームです。  
友人が自宅に来て、すぐ隣にベッドが見えるのが嫌。  
また病院と変わらないという印象を受けた方もいます。  
その解決として、ベッドルームとダイニングを分けました。  
ダイニングは趣味のアトリエとして、また親しい人を招く自由に使える空間としています。
- 地域にだけ込む。  
高齢者住宅はまわりから特別感持たれる場合が多いと思います。  
しかし、最近では地域との関係を積極的に持とうとしている施設も増えていきます。  
日々の暮らしの中で施設以外の人との交流は良い刺激になると考え、積極的に地域との共有空間をつくりました。

### 1、学童

高齢者と子どもと入居者が趣味を共有したり、教えることで今までの経験を活かすことは地域の中で役割を持つことになると考えました。  
また、数年前に老朽化で移転（現在は間借りの状態）の学童が敷地近くにあるので、その機能を複合します。

- 基本的に月～金曜日の放課後の時間帯。
- 現在の児童数は15人。
- 毎日おやつタイムがあるだけで、他は自由時間。  
学童以外の友人なども入って一緒に過ごすこともよくある。
- 職員は2人。

### 2、町内の寄り合い所

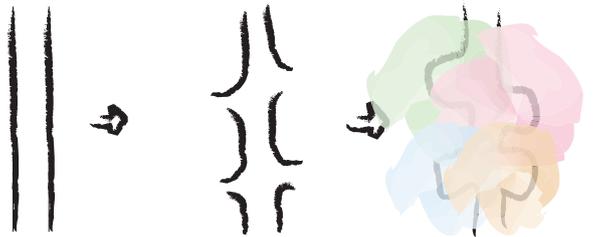
- 現在はアパートの一階部分で、最低限の設備（水回り）と20畳ほどの板の間しか無い。
- 午前中は町内の高齢者向けの体操や、認知症予防の取り組みが行われている。  
指導は市営福祉施設の介護士さん4～5人でやっている。
- 午後は町内会議が行われたり、近所の方が集まってお茶を飲んだりしている。
- 大きな行事としては年に数回バザーやジンギスカンパーティを町内会主催で行う。

## STUDY

スタディで意識したのは土地に馴染む立ち方と、地域が介入しやすい形の2点。  
最終的に3案に絞り、プランニングを進めた結果残ったのが「道案」です。

この「道」とはバサージュのようなイメージで、具体的には町内の寄り合いや住人による住み開きが行われる空間です。

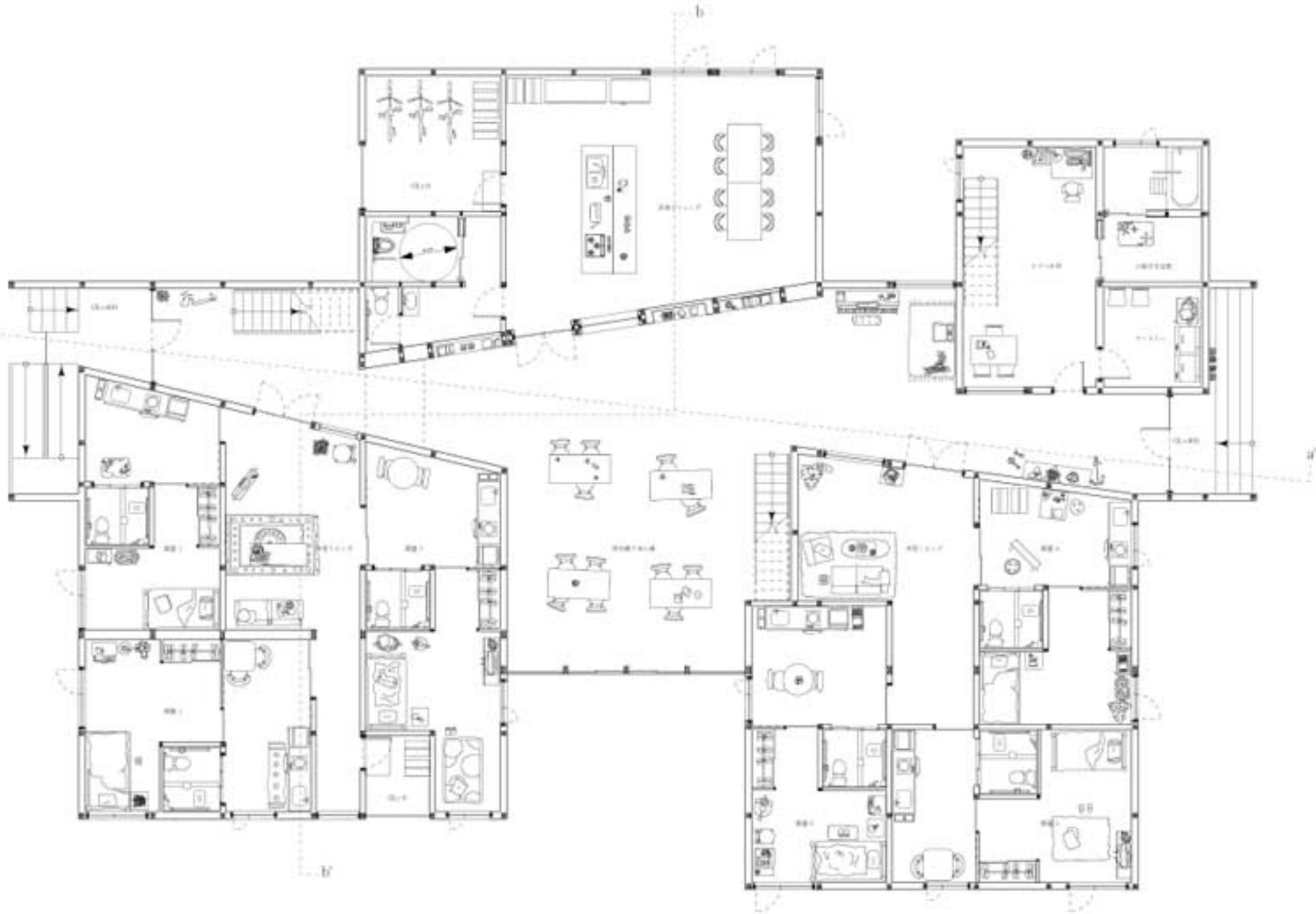
## 道案 Diagram



建物の中に道を作るとき、そこから各ボリュームが派生していくイメージ。



ボリュームの集合ではなく、ワンボリュームの中に「道」という空間がある。



1F PLAN  
scale = 1/100



Hassamu south park

nature trail  
CL 1500

tree plantation  
CL 3000

Hassamu river

Cyouel bridge

 SITE PLAN  
scale = 1/300

